

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果

—平成26年6～10月—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として主に市内公園および港湾地区等において蚊成虫生息状況調査を行っています。平成26年8月には、約70年ぶりにデング熱の国内発生がありました。デング熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などの蚊媒介感染症は、それぞれ主要媒介蚊が異なります。したがって、平常時よりその地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことは、感染症発生時に防除対策を立てる上での基礎資料となります。

平成26年は6月から10月にかけて横浜市内19ヶ所（各8回）で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました(図1)。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました(写真)。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、トラップを一昼夜運転しました。捕獲された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については、横浜市衛生研究所ホームページに掲載しています。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。



写真 CDC型ライトトラップ

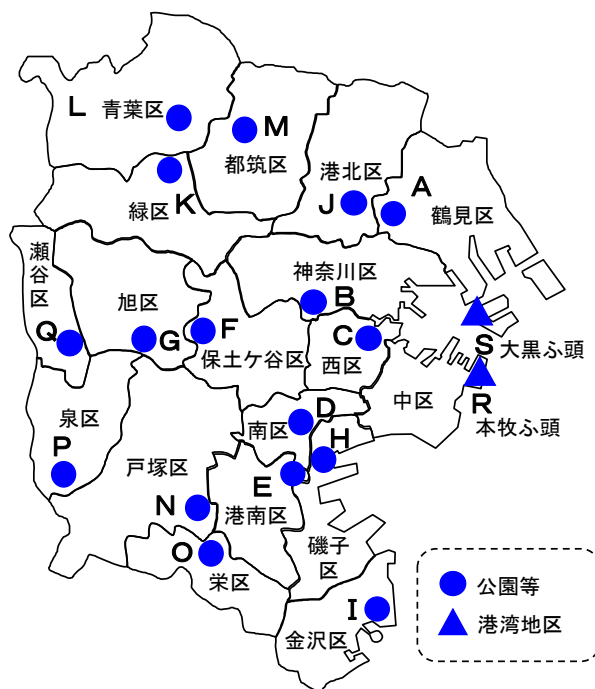


図1 蚊成虫捕獲調査地点

〈捕獲された蚊の種類と個体数〉

捕獲された蚊の種類と個体数を表に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、6属12種7,806個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ 6,309個体(80.8%)でした。次いで、アカイエカ群が1,149個体(14.7%)、キンパラナガハシカが185個体(2.4%)捕獲されました。

表 捕獲された蚊の種類と個体数

属	種	個体数		
		雌	雄	合計 (%)
イエカ属	アカイエカ群*1	1,145	4	1,149 (14.7)
	コガタアカイエカ	17	0	17 (0.22)
	カラツイエカ	16	0	16 (0.21)
	トラフカクイカ	2	7	9 (0.12)
	ミナミハマダライエカ	2	0	2 (0.03)
	ヤマトクシヒゲカ	1	0	1 (0.01)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	5,548	761	6,309 (80.8)
	ヤマトヤブカ	63	10	73 (0.94)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	18	0	18 (0.23)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	157	28	185 (2.4)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	10	0	10 (0.13)
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	1	3 (0.04)
その他*2		14	0	14 (0.18)
合計		6,995	811	7,806



アカイエカ群



ヒトスジシマカ

*1:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。

3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査では、アカイエカ群として扱われている。

*2:破損の激しいもの

〈調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、西区公園(C)で2,149個体、次いで、鶴見区大黒ふ頭(S)で1,054個体、磯子区公園(H)で681個体でした。また、港湾地区の中区本牧ふ頭(R)、鶴見区大黒ふ頭(S)はアカイエカ群優占、その他の調査地点はヒトスジシマカ優占でした。

アカイエカ群とヒトスジシマカの生態は、検査情報月報2011年1月号「[横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果\(平成22年6～11月\)](#)」に掲載されています。参考にしてください。

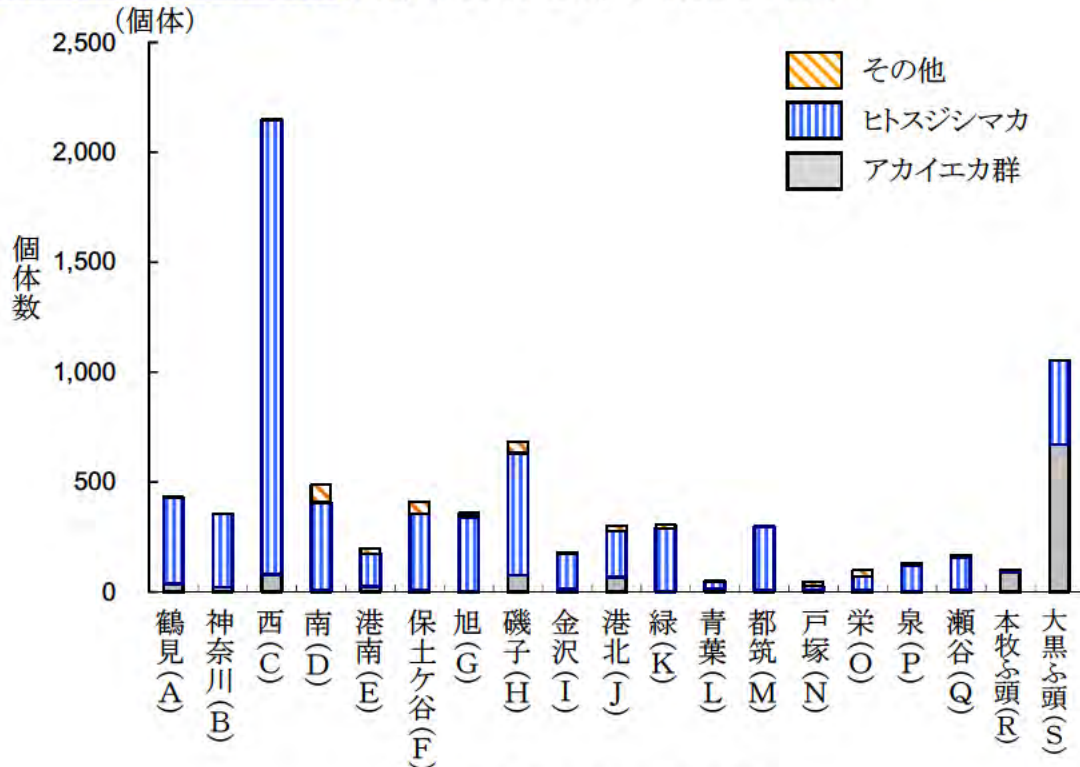


図2 調査地点別の蚊捕獲数

【 検査研究課 医動物担当 】